

1 研究構想

(1) 研究テーマ

自ら学び、学ぶ喜びを実感する生徒の育成

～ICT活用による教育の質の向上と学習支援体制の整備を通して～

(2) テーマ設定の理由

学習指導要領で求められている生徒の情報活用能力を育成するため、ICT活用能力を向上できるようにすることが学ぶ意欲をかき立て、ひいては生きる力を育むことのできる一つの要因であると考えます。

また、授業にICTを活用することで、知識や技能の定着をねらいとした個に応じた指導を行うとともに、協働的な学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びにつながると考えます。

そこで、本校の生徒の課題である「基礎的・基本的な知識・技能の定着」や「活用する力」の育成が図れると考え、本研究主題を設定しました。

(3) 研究仮説

情報活用能力を育む系統的なカリキュラムを開発し、効果的な活用法を授業で実践することで、学びへ向かう力と情報活用能力を育み、主体的・対話的で深い学びに繋がるであろう。

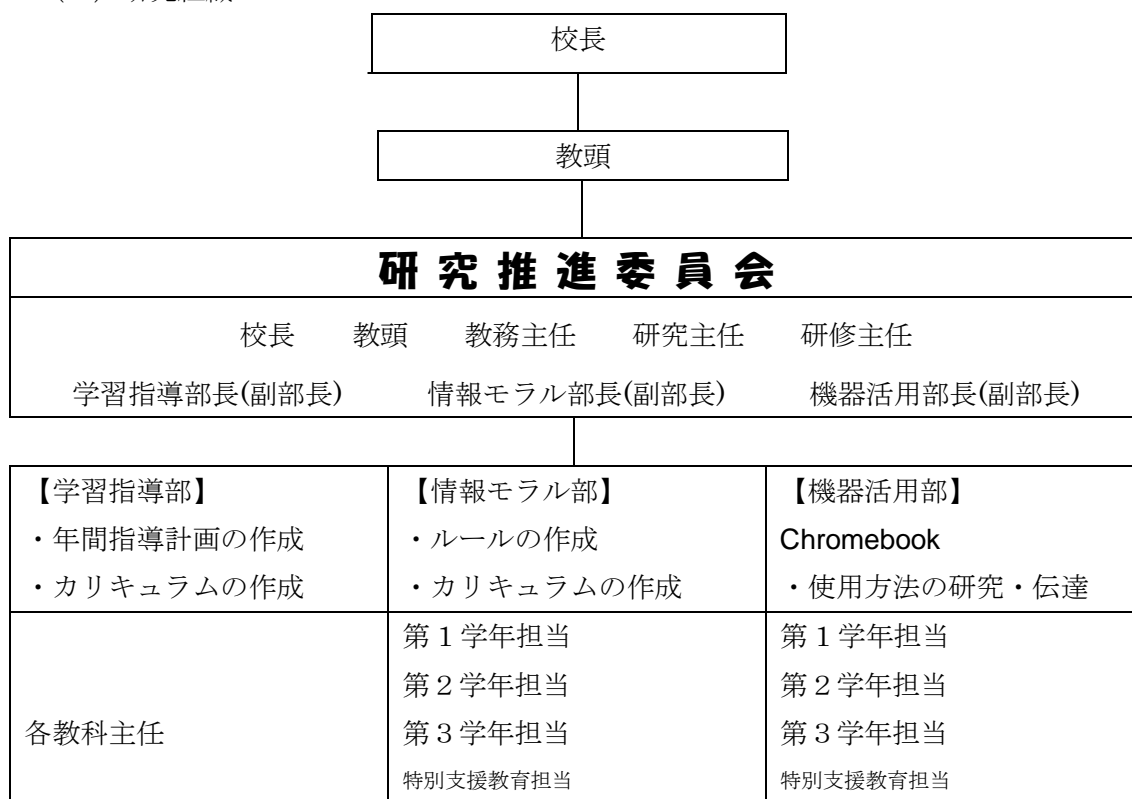
「主体的・対話的で深い学び」の視点から、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力の育成に力を入れる。特に、課題解決の場面では『南中シェアタイム』を全教科等で設定する。

(4) 全体構想図

- ① 明確な課題とICT活用による南中シェアタイムで、情報活用能力を高め、深い学びへ繋げることができる。
- ② ICTの有効的な活用法を発見し、学びに向かう力を育み、多様化された課題に対して主体的に取り組む力が育成できる。
- ③ 9年間の情報モラルを軸とした系統的なカリキュラムを編成することで、教科等横断的な視点に立った見方をもち、更に豊かな心を育むことで協働の学びを確立する。また、教科等横断的な視点を明示することで、経験の少ない教員においても指導が充実する。

2 研究内容

(1) 研究組織



(2) 研究の流れ

| | |
|---|--|
| <p>校内研修</p> <p>教職員のICTスキルを段階的に取り組んだ。</p> <p>第Ⅰ期「使ってみる」</p> <p>環境整備・ログイン・写真や動画の提示等</p> <p>第Ⅱ期「活用する」</p> <p>タブレットを使用した授業展開 (使い比較や練り上げ等で使えるレベルへ)</p> <p>第Ⅲ期「確立する」</p> <p>「いつでも・どこでも・活用できる」 次年度へ向けて(今年の成果を引き継ぐ)</p> | <p>全校総合</p> <p>全校で行う総合的な学習の時間を設定した。タブレットを使用できる環境をつくるため、段階的に取り組んだ。</p> <p>第Ⅰ期</p> <p>ログイン (Google Chrome・ミライシード) 自己紹介スライドの作成、写真撮影、課題提出 ドリルパークによる学習、タイピング練習</p> <p>第Ⅱ期</p> <p>調べ学習、アンケート回答、情報共有</p> <p>第Ⅲ期</p> <p>作成したスライドを使用したプレゼンテーション キャリアパスポートへの活用</p> |
|---|--|

(3) 取組

授業研究部

- ・授業で効果的だったICT活用方法についての情報共有を行うため、定期的な部会を開いた。
- ・県立総合教育センター指導主事を講師に招聘し、Googleの使い方について研修を実施した。
- ・小グループによるICT活用機会の検討・作成を行った。
- ・授業におけるICT活用機会を次年度の年間指導計画への位置づけ、「いつでも・どこでも・活用できる」ようにする。

情報モラル部

- ・情報モラル9年間の目標作成と、生徒指導委員会との協働を図る。
- ・ICT使い方のルールや家庭でのChromebookの使い方のルールを作成した。

機器活用部

- ・ベネッセサポーターから機器活用について講習を受け、教職員へ技術指導を行ったり、ICTリーダーとして活動したりした。
- ・機器活用マニュアルの作成し、教職員が「いつでも・どこでも」活用できるようにした。

3 成果と課題

《成果》

- ① 生徒対象のアンケート調査から、ICTを活用することで、教師と生徒、生徒同士の意見の共有が増え、8割の生徒が深い学びへと繋げることができた。
- ② ICTを活用することで、学びへ向かう力が育まれ、基礎的・基本的な知識・技能の定着へ向けて、一定の効果があった。
- ③ 年間指導計画にICTの活用場面を位置づけ、若手教員や異動してきた教員もスムーズに機器が使えるように整えた。

《課題》

- ① 機器を使った発表の仕方を今後改善していく必要がある。
- ② 授業において機器の使用の頻度に違いがある。いつでも、どこでも活用できるようにしていく必要がある。